



ルーテル 藤が丘だより

ルター派キリスト教会 日本福音ルーテル藤が丘教会
〒 227-0043 横浜市青葉区藤が丘 2-31-21 牧師 佐藤和宏
tel 045-973-2729/ fax 045-439-7009
URL:<https://www.jelc-fujigaoka.org/> mailto: fujigaoka@jelc.or.jp
発行 月報編集委員会 発行日 2018年8月5日 No. 51



photo by K. Sato

主の慈しみは決して絶えない。
主の憐れみは決して尽きない。
それは朝ごとに新たになる。

哀歌 3章 22節 -23節 a



シリーズ説教

『朝ごとに新たに』

牧師 佐藤和宏

マルコ5章21節〜43節

まばたきの詩人といわれた水野源三さんの作品に「主よ、なぜ」というものがあります。

「主よ、なぜそんなことをなされるのですか。わたしにはそのことがわかりません。心には悲しみがみちています。主よ、どうぞこのことをわからせてまえ。」

主よ、なぜそんな言葉を語られるのですか。わたしはその言葉をうけられません。心には悩みがみちています。主よ、どうぞこの言葉を受けさせてまえ。」

主よ、なぜそんな道を開かれるのですか。わたしはその道を行かれません。心にはおそれがみちています。主よ、どうぞこの道を行かせてまえ。」

会堂長であったヤイロの心にも、「主よなぜ」という問いが繰り返されたのではないでしょう。幼い娘が死にそうになったとき、イエスが12年間も出血がとまらない女性とやり

とりをしていた間、ヤイロは「主よなぜ」と心のうちで繰り返していたのではないのでしょうか。

私たちも人生の様々な場面で、「主よ、なぜ」と問いかけずにはいられない経験をするところがあるでしょう。しかし私は、絶えず「主よ、なぜ」と問い続けることが、私たちには大切なことであると思うのです。なぜなら、「主の思いとその道はわたしたちの思いや道を高く超えている（イザヤ58章）」からです。ですから大切なことは、思いを超えているために理解することができない神の御心とその道を前に恐れ、絶えず「主よなぜ」と問いかけて生きることにはほかならないのです。そしてこれこそ、信仰というものにちがいないのです。

第一の朗読でお読みしました哀歌もまた、その置かれた状況の中で「主よなぜ」と問いかけていることがわかります。哀歌は紀元前6世紀のバビロン捕囚期につくられたと考えられますが、私たちの日課となつて3章だけはもつと後代のものと考へられています。それは紀元前2世紀のセレウコス朝による宗教的迫害の時代にあたるというのです。

日課をさかのぼりますと、1節は「わたしは主の怒りの杖に打たれて苦しみを知った者」と始まり、3節では「そのわたしを、御手がさまざまに責め続ける」と主の怒りによつて、苦しめられている自らを嘆いているのです。しかし、この人は次のようにも言っています。「わたしの生きる力は絶えた。ただ主を待ち望もう」と。そして、今日の日課へと続き、それでも主に望みを置く、その理由が明らかになっていくのです。それは次のようにありました。「主の慈しみは決して絶えない。主の憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たになる。今、主なる神の御手を私を責め続けているように見え、この私は困難に直面し、もはや自らの内に生きる力は失せてしまったのです。しかしそれでも、この主の慈しみは決して絶えない。その憐れみは決して尽きない。それは朝ごとに新たに成ると、ただ主の慈しみと憐れみを待ち望むことにのみ、救いがあると確信しているのです。」

水野さんの詩に再び目を向けると、人間の苦しみと悩みの中から絞り出されるような問いかけは、それで終

わっているわけではないことがわかります。その問いかけは、それぞれ祈りとなつていくのです。「主よ、なぜ」と問いかけるしかない現実の中で、もがきながらもそうできるようにと祈り求めるしかすべがない、ここに信仰が生まれるのです。哀歌の作者も、神の怒りに打たれて、自らの力ではどうすることもできない現実を突きつけられたとき、「なにゆえ」と問いつつ、しかし怒りを向ける神がそれでも絶えることのない慈しみと尽きることのない憐れみの神であることを知って、この神を待ち望むという唯一の救いの道が開かれたのです。「主よ、なぜ」という日々の問いかけに、主ご自身が答えを私たちに示してくださいます。そしてその主の御心は、キリストの十字架によつて、すでに私たちに慈しみと憐れみとを注いで、自ら生きる力を失った私たちを新たにしてくださいます。この十字架の主によつて、私たちは日曜日の「朝ごとに」この礼拝の場で「新たに」されて、主の慈しみと憐れみによつて安心して生き始めることができるのです。

(聖霊降臨後第10主日)

私は、今年12月で受洗後45年となります。その間決して真面目で熱心な信仰者ではなかったのですが、神様にずっと守られてきました。病気の時には牧師先生はじめ教会の皆様が祈って下さり、闘病中神様に支えられました。感謝しかありません。

今日は、私が今老人ホームで行っている、リラの音楽奉仕の話を書きます。その対象者は主に認知症の方、寝たきりの方、意識の鮮明でない方等々。その方々と私との共通点は共に「神様に生かされている」事です。(先日の鈴木先生の言葉『命は大いなる存在から与えられるもの。神様が「良い」とされて命を与え続けておられるのです。』)そんなホーム利用者に、ハープの音楽を通して関わらせて頂いています。

リラの音楽のコンダクターは相手の利用者ご本人であり、その方の呼吸・息遣いに合わせて音楽を奏でます。その際問われるのは、こちらの心の状態です。大切なのはこちらが落ち着いた、

信徒音楽礼拝証言より

平穏な心である事。雑念がなく、無心になる事です。心を空っぽにする事により、相手の方の息遣い、醸し出されるその人らしき、その存在の確かさが伝わってきます。そしてその方に向けて、静かで穏やかな音楽を届ける事を

私と リラプレカリア の音楽



○田とも子

心掛けます。

問題は私にとって、心の平静を保つ事の難しさ。無心になる事の難しさ。慌て者でガサツな私は失敗が多いのです。幾ら「落ち着こう」と思っても、自分で自分の心をコントロール出来ま

せん。そんな時は神様にすがりかかないと思っています。祈ると神様が力を与えて下さり、肝が据わるように感じます。

最後に、ホームでお会いする高齢者は「何々する事」に価値を置いていま

せん。意識的にしろ、無意識にしろ、自分の置かれた状況をその身をもって受け入れ、「自分の生と自分の身体」を周囲の人々に委ねて生きておられます。まさに、純粹に「自身自身を神様に委ねる」事の出来る方々だと思います。「何かする」ではなく、「ただある」という『存在そのもの』としての人間の尊厳を、身をもって示して下さいよう思います。本当に利用者から大切な事を学ばせて頂いております。(2018年7月8日の信徒音楽礼拝にてなされた証しをご本人が短くまとめられたものです。)

■以下編集者注

「リラ・プレカリア(祈りの豎琴)」

病床にある方や心身に痛みを持つ方に、ハープと歌による祈りをお届けする活動です。その目的は、訪問を利用してくださる方(以下、利用者)一人ひとりに「あなたはそのままに価値のある大切な存在です」と伝えることにあります。私たちはベッドサイドで利用者の呼吸に合わせて音楽を奏でることで、共感と敬意をもって利用者と共に在ること、そしてそれが利用者の癒やしとなることを目指しています。(日本福音ルーテル社団ホームページより)

■女性会だより

7月15日 礼拝後に開かれました。

参加 13名

聖書の学びローマ人への手紙

5章1節〜5節

「希望を誇りに」

お仕事会 参加 10名

9月の講演会のご案内

伝道支援金プロジェクト委員会

委員長 ○田○一郎

2018年、藤が丘教会では東教区より支援を受けて4回の講演会を計画しています。名付けて「FUJIGAOKA de CULTURE LIFE (藤が丘でカルチャー・ライフ)」。今回は、9月9日(日)の午後12時半から午後2時まで行われる3回目の坂根シルック先生の『個』を大切に豊かに生きる」という講演会のご案内をします。

坂根先生は現在、東京農工大学リーディング大学院特任准教授です。フィンランドのヘルシンキ生まれで、3歳の時に宣教師の親と初来日し、幼少期を大分で育ちました。日本で小学校を卒業後、フィンランドで学生生活を送りました。20歳の時に再来日し、在日フィンランド企業やフィンランド政府機関に勤務し、現在は東京農工大学でグローバル教育に携わる傍ら全国



で講演を行っています。日本をこよなく愛している先生は、「日本を第二の故郷」と言われるほど、日本に関する知識を持たれています。フィンランドと日本の文化を比較し、楽しい雰囲気の中で様々な観点から豊かに生きる上でのヒントを話して下さるフィンランド人です。文化人タレントとしてもメディアで活躍中です。

尚、参加には事前の申し込みが必要となります。講師名・住所・氏名・連絡先を明記して、045・479・7009までファックスして下さい。教会のホームページ <http://www.jelc-fujigaoka.org/> から申し込みができます。教会員の皆さんには、申し込み用の氏名を記入する用紙をホワイト・ボードに掲示します。

教会の動向



7月の教会

1日礼拝では、子どもメッセージ、聖餐式がありました。礼拝後、定例役員会が開かれました。カトリック教会との打ち合わせや伝道支援金プロジェクトからの報告を受けました。協議事項では○クさんご家族の日本基督教団相模原教会への転籍が承認されました。佐藤牧師は、3日から13日まで夏期休暇でした。

8日礼拝は、信徒音楽礼拝で司会を○田さん、証しを○田さんにお願いしました。礼拝にはアメリカより、○飼さんご家族がお見えでした。11日には、お仕事会がありました。また、12日には6月30日に召天された吉○努さんの葬式が教会にて執り行われました。皆さんのお祈りとご参列ご奉仕に心より感謝申し上げます。15日礼拝前に洗礼準備会がありました。また礼拝後、クリスマスコンサート委員会、女性会がそれぞれ開かれました。17日には、子育てわいわいワークショップがありました。18日には聖研がありました。

22日の礼拝前に、洗礼準備会がありました。礼拝には、アメリカより松○英○さんご家族がお見えでした。礼拝後、ホームカミングデイ委員会、伝道支援金委員会がありました。

29日礼拝後、臨時役員会が開かれました。今年が宣教35年(最初の礼拝から)ということもあり、記念文集の企画を有志を募って実施することとしました。

○田○子さん(○田由○子さんのお母様)より、受洗希望のお申し出があり、今月26日礼拝にて、洗礼式を執り行うこととなりました。お祈りください。

礼拝に初めてのお越しは、小○順子さん、○田美○里さんでした。主の祝福をお祈りします。

牧師室より

思えば、毎年のように「今年の暑さは特別ですね」と、挨拶しているように思います。今夏も暑さだけではなく、雨もすごいです。被災された皆さんを覚えてお祈りします。

西日本豪雨災害被災者支援のための募金を始めています。お祈りと献金をお願いします。(佐藤)